

N P O 公 募 型 事 業 成 果 報 告 会 資 料 (案)
(平 成 1 8 年 度 県 と N P O と の 協 働 事 業 提 案 関 係)

団 体 名	特定非営利活動法人千葉まちづくりサポートセンター
代 表 者 名	福川 裕一
所 在 地	千葉市緑区大椎町 1188-129
電 話 番 号	090-9970-1749

1 事業名	県立中央博物館における県民と専門家による「千葉の干潟展」開催事業
2 事業費	3,602,088 円 (このうち県の支出 3,602,088 円)
3 事業期間	平成 18 年 5 月 22 日 ~ 平成 19 年 3 月 31 日
4 事業の目的	博物館と NPO が協働して地域の課題をテーマに企画展示を行うことにより、環境学習の場を広げるとともに、作業の過程で浮かび上がった博物館活動における協働事業の課題を抽出し、今後の博物館事業の活性化に役立てることを目的とする。
5 事業概要	<p>県立中央博物館における県民と専門家による企画展示「千葉の干潟展 砂と泥にかくれた驚きの世界」の開催(H19.1.27~2.18)に向けて、実行委員会形式で企画、広報、製作、展示、催事、運営を協議して実施した。</p> <p>また、関連事業として、</p> <p>博物館や地元の講師による調査・観察会を干潟各地で 9 回開催した。</p> <p>展示開催中にシンポジウム、調査・観察会の報告会、ギャラリートーク・ギャラリーコンサート、プランクトン観察・干潟の渡り鳥講座を開催した。</p> <p>千葉の干潟マップ製作 10,000 部</p> <p>広報</p> <p>HP 平成 18 年 4 月 22 日に開設。「本事業の参加者募集」に始まり、現在に至る。</p> <p>内覧会</p> <p>チラシ 現地調査・観察会用 3,000 部×3 回 干潟展 20,000 部</p> <p>ポスター 200 部</p> <p>軽食レストランに期間中の特別メニューを提案し、実施された。</p> <p>報告書の作成 ダイジェスト版報告書の作成</p>
6 事業経過	<p>10 か月で干潟展他、多様な事業を実施しなければならないので、駆け足ではあったが、</p> <p>準備期間</p> <p>17 年年度から、企画書を示して NPO に参加を呼びかけ、5 回の準備会を持ちながら協働事業と干潟展のイメージづくり、内房と外房の広域な組織作りを目指した。博物館展示会場の下見をした。</p> <p>実行委員会スタート</p> <p>18 年度 5 月末から博物館担当者、三番瀬、盤洲、外房地域グループ、千葉まちづくりセンター(事務局)で実行委員会を構成し、関係課の参加を得て開催し、事業目的、基本コンセプト、実行委員会規約、組織と役割分担、実施項目の抽出、大工程、干潟で実施する調査・観察会の計画案を協議し、</p>

実施体制に移行していった。

企画立案段階・担当者会議

6月以降、企画担当者会議を開き、企画展示に関する企画立案を進めながら、テーマ名、展開プラン、会場レイアウト、関連イベント、展示概念図を作成した。展示協力団体を呼び込んで行った。

調査・観察会の実施と広報・PR

7月から12月まで干潟現地での調査・観察会が、3地域グループが運営に当り、7月から12月まで、全9回実施された。これに先立って広報チラシを3回作成し県下に配布した。地域からのスタッフ協力を呼びかけた。

煙蒸までの搬入

8月末まで博物館の煙蒸のため展示の可能性のある展示物を極力、搬入した。間に合わないものについて別途、対応してくれた。

展示・会場・広報の検討

9月以降、中・小テーマ・コーナーのねらい、展示内容、担当者、展示のイメージを検討していった。テーマ展示と自由展示の組み合わせや、じっくり見る空間と、参加型の空間のイメージができていった。

10月実行委員会の採択を経て、本格的に製作段階に突入した。

企画展のチラシ・ポスターの製作・配布計画を進めた。

展示製作

製作・展示担当者会議で、博物館展示グループの方からスケジュールを示された。パネル文字原稿・写真の製作、地域での展示物製作を進めながら、博物館の第2展示室の製作協力者、博物館とともに大物の製作にかかった。12月実行委員会は流れたが、全体のシナリオが提示された。外部からの資料の借り出し、ノリづくりの道具の搬入を済ませた。

千葉の干潟マップ製作

三番瀬や盤洲干潟ほか、県内にある干潟のマップを配布用に製作した。

展示・搬入

1月正月明け、博物館側による展示会場の大物設営が行われた。これ以後、NPOがいつぺんに来てても脚立などの道具がないので、調整された日に地域グループや団体、展示制作協力者による資料の搬入と展示を行った。

千葉大による資料が出来上がって、展示された。

最後に生きもの展示が搬入された。

企画展の実施・運営(当番)・関連イベント実施

1/26 内覧会 102名

1/27～2/18 展示会開催 当番体制で対応 5,000名 8割に対応

1/28 2/12 プランクトン観察2回 計411名

1/30 から 2/18 ミュージアム・トーク10回 計128名

2/3 各地で開催した9回の調査・観察会の報告会とシンポジウム

「どうなる、どうする千葉の干潟」161名 終了後交流会

2/12 ギャラリーコンサート「笑う干潟・三番瀬」高谷秀司 105名

2/18 講座 渡り鳥のくる干潟 35名

終了後のふりかえり 第4回実行委員会

協働が行われたか? NPO 推進室からの説明を受けてふりかえりや、干潟展事業参加への感想。会計報告、博物館からの報告 NPOの事業報告書案

	以後、報告書、成果報告会資料、協働チェックシートの作成
7 事業成果と波及効果	<p>受益対象への具体的な成果</p> <p>地域の課題をテーマに提案した企画展示が協働で実施されて、県民にとって博物館が今までより身近に、重要に感じられる。</p> <p>また、「千葉の干潟・砂と泥にかくれた驚きの世界」開催中は、梅の花も見頃の相乗効果もあり、多数の入場者(5,000名)があった。若い世代も多く入ったので収益につながった。</p> <p>干潟各地での調査・観察会も毎回多数の参加者を得た。</p> <p>入場者約5,000名のうち約8割の方に対応した。アンケートでは分かりやすい展示説明とフレンドリーなサービスが好評。</p> <p>顔が見える企画展示となり、干潟の価値が人から人へ伝わった。</p> <p>関連イベントは多数の参加者を得て、参加型の展示も人気で博物館も活気があふれた。</p> <p>「千葉の干潟マップ」を配布。知られていない小さな干潟も結構一杯あることに驚かれ、今後、身近な干潟探しや環境学習につながると思われる。干潟にちなんだレストランの特別メニューは美味しくて多数利用された。千葉のお雑煮 350食 磯辺もち 150食 外房グループの協力大。</p> <p>達成度</p> <p>入場者の約8割の方に対応し、目標とした干潟の価値を分かりやすく伝えることができた。一人で見たい人にはそのように対応する配慮もし、展示や説明に対するアンケートの結果は好評だった。</p> <p>事業に関わった NPO 実行委員や地域スタッフのほぼ全員が、「博物館との協働は良かった、これまでは近寄る機会がなかった博物館の人に干潟や博物館で接した、今後もつながっていききたい、干潟での調査も引き続き充実させ、資料として纏め上げていききたい」といっている。</p> <p>博物館の展示会場の中で、手が出せない所もあり、大きな張りパネの製作や、ウォールケース内の展示などは博物館や外注に御願いした。</p> <p>関連のイベントなども多数の県民とともに成功裏に行った。</p> <p>波及方法及び効果</p> <p>チラシをバージョンアップしながら、長期に広域に配布した。</p> <p>広域からの実行委員会や地域スタッフで取り組んだ。</p> <p>地域グループは展示資料を地域で協力者を得ながら製作するやり方。</p> <p>3 地域グループ同士の交流が進み、それぞれの目指す干潟の保全や現状を学びあった。</p>

<p>8 協働の効果</p>	<p>NPO から見た効果</p> <p>今回は自由展示のほかに、専門的なアドバイスを受けながら、テーマ展示も実施したので、系統的な良い展示となり、NPOも力がついた。</p> <p>普段、博物館とつながっていない人たちを呼び込めた。</p>
<p>9 今後の展開と課題</p>	<p>平成18年度以降の事業展開</p> <p>今回まとめた資料や体験を生かして、地域や学校でミニ干潟展を開催していきたい。</p> <p>提案事業による前例ができたので、別なNPO・県民と博物館の専門家による企画展示も展開されるのではないのでしょうか。</p> <p>人材・財源の確保</p> <p>今回の干潟展に取り組んだ各地域グループのネットワークは残るので、引き続き活動できる。各地域での活動は動きやすく、展示も今回の資料を活用し実施できる。今回かかわった教師の学校であれば実現可能。</p> <p>他の主体とのネットワークの構築</p> <p>高校や、生物多様性ちば県戦略とのネットワーク。</p> <p>上記の事業展開等を実現する上で問題となること・課題</p> <p>事業の目的を共有できるか。</p> <p>実現に向けてのコミュニケーションづくり。</p> <p>地域へのアピール。</p> <p>これからも干潟の観察のまとめ成果を展示用に資料化していくこと。</p> <p>責任の所在</p>